

3 LFD-300Bを反対方向に移動し、トーンを検出するために回線にセットします。



<理論>

- ▶ ディスプレーにレベル値が表示されている場合、この回線はトラフィックが流れている現用回線であるがトーンを検出していません。
- ▶ ディスプレーにサイン波/Sパターンが表示された場合は、この回線は現用回線でトーンを検出しています。TG-300Bと同期している状態です。

LFD-300B

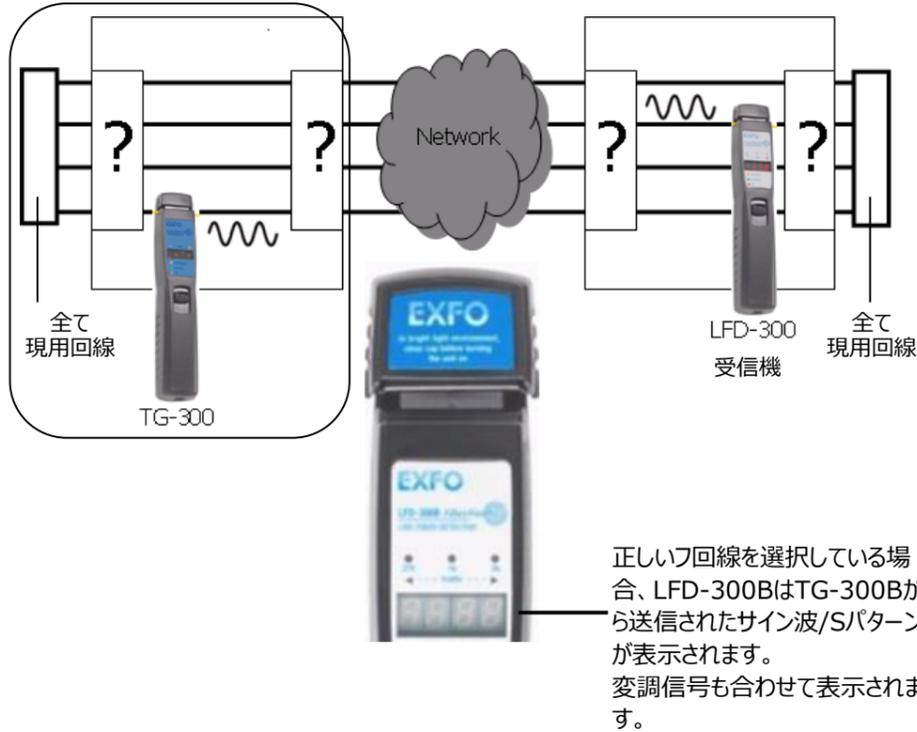
回線の遠端をLFD-300Bで挟み込みます。

<注意>

テストサイクルを完成するのにおよそ6秒かかります。

<注意>

サイン波パターンを表示する前にLFD-300BとTG-300Bは光レベルを測定して表示します。



トラブルシューティング

事象	原因	解決策
-20dBm~-35dBmが検出される。または、LOと表示される。	誤った回線を選択しています。ダークファイバーやトラフィックが流れていない回線を選択されている可能性があります。	LFD-300BまたはTG-300Bのどちらかを移動させ違う回線を選択してください。-25dBm以上にしなければなりません。正しい回線を選択した場合にはサイン波/Sパターンが表示されます。

クイックリファレンスガイド

TG-300B/LFD-300B

Tone Generator/Live Fiber Detector

適切に回線をセットすること

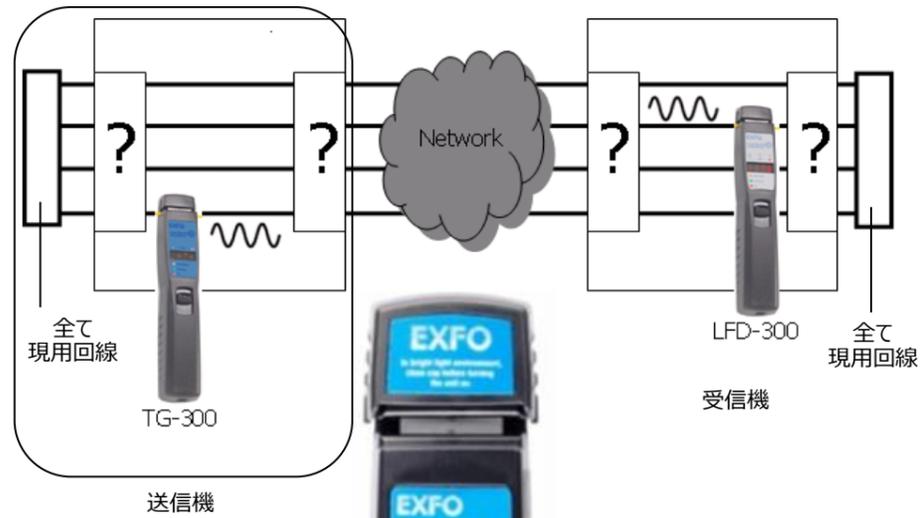
回線の調整は、最適な試験結果を取得するためにも重要です。



回線を適切に調整溝にセットして下さい。また、回線のセット状態は両側から確認して下さい。

TG-300B

- 1 適切な試験結果を取得するために回線を水平に溝にセットする。
- 2 現用回線にTG-300Bを挟み込み、送信する。



トラフィックの方向が表示されます。
トラフィック上に交調信号が生成されるとサイン波/Sパターンがディスプレイに表示されます。

<注意>

黒や青の被覆のファイバーの試験は測定器の性能に影響を与える可能性があります。カラー被覆のファイバーは、光を吸収してしまうことがあり、黄色の被覆が最適です。

<注意>

TG-300Bは現用回線にロードするため6秒間掛かります。そして回線に変調信号を流します。

トーンとトラフィック方向の確認

正常に試験するためにTG-300Bは送信側に、LFD-300Bは受信側に装着して下さい。

- 1 送信側にTG-300Bを装着します。



- 2 トーンを検出するために回線にLFD-300Bを装着します。



<注意> :

トーンが送信されていてもトラフィックの方向を常に検出できるとは限りません。次のステップでは、TG-300Bを基準としてトーン方向とトラフィック方向を検出するのに役立ちます。このステップが正確に実行されない、トラフィックの方向が正しく測定されていない場合、LFD-300Bは正しく光活線ファイバーを特定することができません。

LFD-300Bはトーン検出時にトラフィック方向の測定をすることができます。

この例では、トラフィックは西側(West)から東側(East)に流れています。



<注意>

もし現用回線を検出できなかった場合やトーン検出ができなかった場合は、ステップ3へ